



Approach ～越谷市における小中一貫教育の取組～

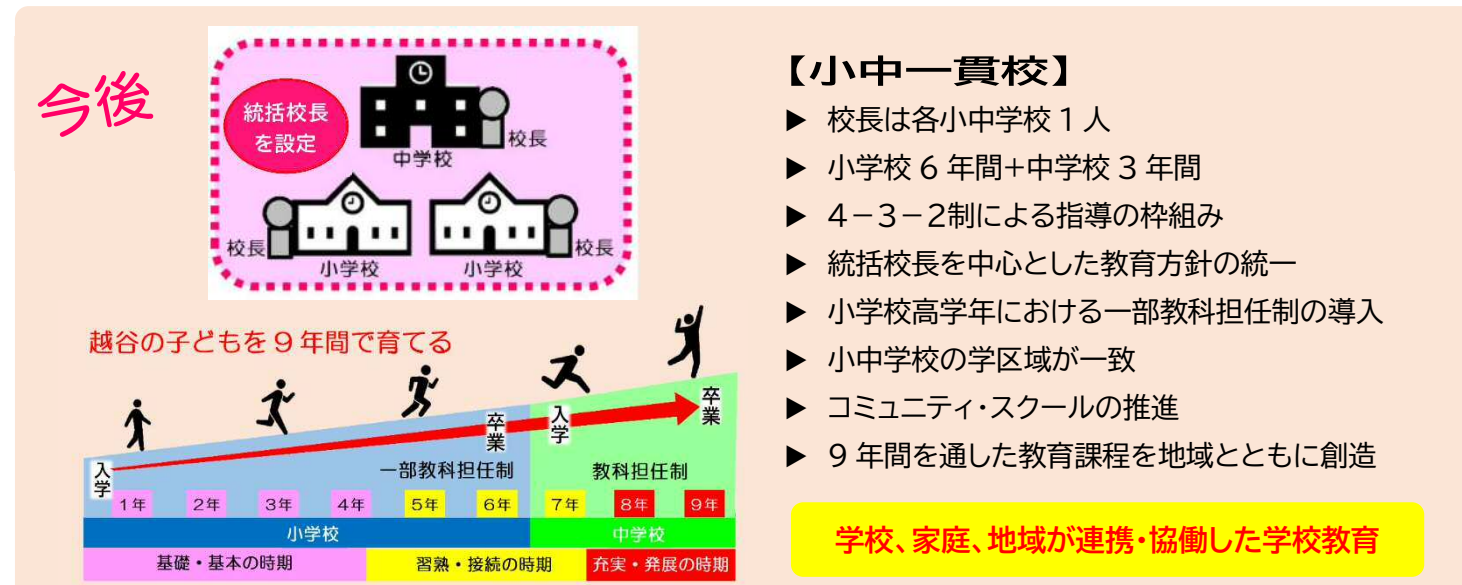
越谷市では、平成27年度から「夢に向かって輝く子どもの育成」を目指し、市内全小中学校を中学校区の15ブロックに分け、小中一貫教育に取り組んできました。

小中一貫教育は、9年間のつながりを意識した学習指導や生徒指導によって、様々な教育効果を生み出す制度として、現在も全国各地で地域の実情に応じた取組が進められています。

実際に、本市でも5年間に渡る取組を通じて、児童生徒の学力の向上や自己肯定感の高揚、中1ギャップの解消など、多くの成果や児童生徒の変容を見ることができました。

こうした中、本市では小中一貫教育をさらに深化させるべく、小学校と中学校の学区を一致させ、地域とより協働的な教育活動がしやすいとされる、いわゆる「小中一貫校」の設立を目指すこととしました。

令和2年度からの第2期小中一貫教育では、9年間の義務教育期間を通して、学校・家庭・地域が連携・協働した学校教育の実現を目指します。より効果的に達成するための方策として、市内初の小中一貫校を設立し、小中一貫教育の推進に取り組んでいきます。



Concept(案)

* 今後、学校と連携しながら内容をさらに検討します。

多文化共生^{※1} 社会を生きる人財を育む ～越谷と世界～

- 〈目指す児童生徒〉 地域・日本を知り、世界へ発信できる児童生徒を育む
- 〈キャッチフレーズ〉 『人とつながる ともに生きる 人にやさしい川柳』
- 〈特色のある教育〉 英語教育・国際交流を重視した9年間を通す指導計画のもと、防災教育・福祉教育・環境教育・キャリア教育等を中心に世界へ発信できる児童生徒を育みます。
- 〈9年間を通す指導〉
 - 1～4年生: 川柳、越谷、日本について知り、地域の人々とつながることを重視
 - 5～7年生: 中学校英語教員も参加する英語教育の充実と、姉妹都市との交流や外国の文化・習慣等について知る学習を重視
 - 8・9年生: 大学と連携した留学生との交流、姉妹都市キャンベルタウンの生徒との交流等を行い、世界へ発信できる生徒

【カリキュラム活動例】

8・9年 **教科担任制^{※2}** 8・9年生の地域参加の教育【人のために考え行動する】
表現や発信を大切に教育活動 1～4年生との交流活動

(国際理解教育) ○文教大学・埼玉県立大学等と連携し、英語を使って学生や留学生と交流
○英語で地域の外国人や姉妹都市キャンベルタウンと交流

(環境教育) ○日本と世界の環境問題について知る ○地域防災訓練への参加
○エネルギー 食糧問題 3R 地球温暖化 生活環境 自然環境
○健康と食育 共生と協働 ○地域の方とともに社会参加活動

(キャリア教育) ○高校との交流(進路学習)

5～7年 **5・6年生の一部教科担任制、7年生からは教科担任制**【人の思いを知る】
中学校教員の5・6年授業への一部参加 5・6・7年生児童生徒の交流活動

(国際理解教育) ○英語教育の充実 ○外国の学校との関わり ○姉妹都市キャンベルタウンとの交流
○世界遺産・世界の食・民俗・習慣・歴史と伝統を知る国際理解教育
○日本の文化を知る 伝統文化

(福祉教育) ○福祉教育 バリアフリー ユニバーサルデザイン ○ボランティア活動

1～4年 **学級担任制** 地域を素材に基礎基本を学ぶ【人とつながる】
具体的な活動や体験的な活動を中心に実感する学習

(国際理解教育) ○地域の人や保護者、ALT^{※3}との関わり ○川柳のお祭り ○昔遊び
○日本の文化に係る仕事をしている人との関わり ○地区にある伝統への気づき
○民俗伝承 埼玉県の自然環境 特産物 郷土料理 ○越谷・埼玉県の偉人 ○外国語活動

(防災教育) ○地域の防災対策を知る 自助・共助・公助を考える
【土台として】 ○レイクタウン地区の自然環境 ○学校探検、まち探検
○交通 学校 地区の土地利用、地形、古くから残るもの
○地域に暮らす様々な職業の人との出会い

【用語の説明】

※¹ 多文化共生……国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員としてともに生きていくこと。

※² 教科担任制……中学校で行われている制度で、教科ごとに教える教員が変わる。小学校ではクラス担任がほぼ全教科を教える。

※³ ALT……外国語を母語とする国の出身で、小学校や中学校の英語の授業において教員の補助を行う外国語指導助手のこと。